

物忘れ外来・骨粗しょう症外来のご紹介

○もの忘れが気になりませんか？

もの忘れにはさまざまな症状がありますが、一般に認知症の初期症状とされています。しかし、実際にはその原因として多くの疾患があります。たとえば、アルツハイマー病・脳血管障害・うつ病・甲状腺の病気・特殊な肺がん・ビタミン欠乏症・慢性硬膜下血腫・水頭症などがあります。これらの病気の中で、物忘れ症状を改善したり、進行を遅らせたりすることのできる疾患があります。しかし、それがどのタイプのもの忘れなのかを判定するためには検査が必要です。当院では、その検査および治療を一緒に行います。

次の自己診断チェック項目で、気になる場合は気軽にご相談ください。

■物忘れ外来

- ▽診察日 毎週木曜日 午後2時から<ご予約ください>
- ▽担当 脳神経外科部長 田中 祥弘

- ①もの忘れを周りの人から言われる
- ②簡単な計算の間違いが多くなった
- ③大きなお金(1万円札)で支払いをする
- ④時間や場所の感覚が不確かになった
- ⑤慣れているところで道に迷った
- ⑥必要な物や事を忘れてしまう
- ⑦同じ物を買ってしまう
- ⑧ものの名前が出てこなくなった
- ⑨食べたことや食べたものを忘れる
- ⑩最近の出来事が思い出せない
- ⑪人と会う約束や日時を忘れる
- ⑫鍋をこがした、ガスの火を消し忘れた
- ⑬アンケートや質問用紙の記入にとまどうことがある
- ⑭医者からもらった薬が余る
- ⑮テレビドラマの内容が理解できない、説明できない
- ⑯身だしなみ・服装が気にならなくなった
- ⑰家事・日課・趣味をあまりしなくなった、興味・関心がなくなった
- ⑱ささいなことで怒りっぽくなった
- ⑲以前より疑い深くなった



※チェックリストは「認知症を知るホームページ (<http://www.e-65.net/index.html>) 認知症の危険信号」を奈良県立医科大学精神科森川将行先生が改変したものです。

○骨粗しょう症ってご存知ですか？

日本での骨粗しょう症の人は1100万人いると言われています。しかし、そのうち約20%の人しか治療を受けていないことが大きな問題とされています。平成16年の統計では、骨粗しょう症による大腿骨頸部骨折が寝たきりとなる原因の第3位にあげられており、生命予後も大きく悪化させると報告されています。骨粗しょう症の症状は身長が縮む、背中、腰が曲がる、痛むなどがありますが、これらは骨強度が低下したために背骨が脆弱性骨折を起こしているのが原因です。当院には骨粗しょう症による骨折で手術などの入院治療を受けている方が大勢おられます。未然に骨折や寝たきりを防ぐ予防医学の見地からも、皆様に貢献できれば幸いと考えています。骨粗しょう症の検査はレントゲン検査、骨塩定量などがありますが、いずれも簡単な検査です。お気軽にご相談ください。

■骨粗しょう症外来

- ▽診察日 毎週月曜日 午後1時から<ご予約ください>
- ▽担当 整形外科部長 秋山 晃一

▶五條病院では、脳卒中・てんかん外来(脳神経外科)、肛門疾患外来・禁煙外来(外科)、肝臓病外来・循環器外来・胃腸外来・内分泌糖尿病外来・栄養外来(内科)、発達予防接種外来・慢性疾患外来(小児科)、股肘足関節外来(整形外科)、形成外科・学童外来(皮膚科)、尿路結石腎不全外来・尿失禁外来(泌尿器科)など15の専門外来も開設しています。詳しくは当院にお尋ねいただくか、または、当院ホームページ (<http://www.gojo-h.jp/>) をご覧ください。

■問合先 奈良県立五條病院 ☎22・1112